

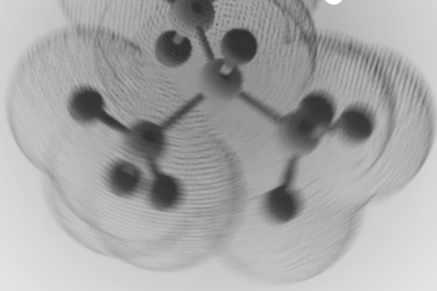
栗原 幸江(くりはら・ゆきえ) 静岡がんセンター心理療法士 1994年米国コロンビア大学ソーシャルワーク大学院修士課程卒。ニューヨークにある緩和医療専門病院カルバリーホスピタルに勤務し、終末期がん患者と家族の心のケアに携わる。2002年静岡がんセンター開設に伴い帰国。がんセンターでは「患者と家族の心のつらさ」の緩和に努める。

希望はいつももある

がんは、患者さんやご家族の心に大きなストレスを与えます。がんの症状そのものや治療の苦痛、生活上の制限、将来への不安など、患者さんやご家族が抱えるつらさはさまざまです。私が所属する緩和医療科は、そうした身体やこころのつらさを和らげることを専門としています。

心理療法士の仕事は、『対話』を大切にします。困っていることやつらいと思っっていることを伺う中で問題点を整理し、解決への鍵を見つけていきます。

もっと知りたい! がん医療



〈企画・制作／静岡新聞社営業局〉

チームでQOL向上を

例えば、脳卒中で半身麻痺の患者さんを診察する場合、リハビリ担当医は、まず、麻痺(まひ)の程度などの運動の障害を重点的に診ます。次に、患者さんの歩行、食事の具合、家の階段、トイレなど自分で自分のことができるか、日常生活のことにも注意を向け、さらに、復職、復学などの社会的な面についてもチェックします。つまり、脳、肺、心臓などの個々の臓器の問題だけでなく、社会的な面も含めてトータルで患者



辻 哲也(つじ・てつや) 静岡がんセンターリハビリテーション科部長 1990年慶応義塾大学医学部卒。同年同大医学部リハビリテーション医学教室入局。98年慶応病院リハビリテーション科医長。2000年ロンドン大学付属英国国立神経研究所、神経生理学部門へ研究員として留学。02年現職。医学博士。専門はリハビリテーション医学全般、臨床神経生理学、運動生理学。

幅広いリハビリの対応

高齡化社会の到来とともに、がんの死亡者数は年々増加しています。一方では、治療の進歩とともにがんの生存率もかなり向上してきていて、現在では少なくとも半数の方が助かるようにな

予防と早期離床が重要

手術の前後のリハビリテーションは、開胸術、開腹術の練習として、術後にしっかりと実践していただきます。術後の早期離床も大事。頭を起して動けば、痰は出やすくなります。

手術後の障害克服へ

乳がん、子宮がん・卵巣がんの手術でリンパ節を取った後、リンパ浮腫(むくみ)が起ることがあります。リンパ浮腫の発症率は、乳がんの後の方で大体1割、子宮がんの後の方で2、3割といわれ、リンパ浮腫の罹患者数は、年間1万人ほどと推定されます。リンパ液は、手足でリンパ管を流れて、腋や股が現状で、どこの医療機関でも「がんリハビリ」が普及するよう願っています。

がんの後遺症と社会復帰にむけて

静岡がんセンターリハビリテーション科部長 辻 哲也氏

がん医療の最前線を総合的に学ぶ県立静岡がんセンター公開講座「もっと知りたい!がん医療」(静岡新聞社・静岡放送主催、同センター共催、弘法の湯、株式会社ヒール協賛)の第5回講座が今月10日、三島市一番町の三島市民文化会館で開催されました。同センターの栗原幸江心理療法士が「がんつき合いながら生きるコツ」患者と家族の覚書、辻哲也リハビリテーション科部長が「がんの後遺症と社会復帰にむけて」をテーマに講演しました。その概要を紹介いたします。

がんつき合いながら生きるコツ

患者と家族の覚書

静岡がんセンター心理療法士 栗原 幸江氏

「泣いたってしょうがない」と泣くことを我慢したり、「話したって上がってくる」と、気持ちも一緒に上がってくる、気がついてくると、不安な時、体の筋肉は、気がかぬうちに緊張しておさ、医療スタッフといったサポートの存在が非常に大きいです。自分が「一人で信が生まれ、それが次の試験を乗り越える時の道具として加わります。また、その時そばにいてくれた人たち、家族、友人、入院時の同室の患者さん、医療スタッフといったサポートの存在が非常に大きいです。自分が「一人で

「泣いたってしょうがない」と泣くことを我慢したり、「話したって上がってくる」と、気持ちも一緒に上がってくる、気がついてくると、不安な時、体の筋肉は、気がかぬうちに緊張しておさ、医療スタッフといったサポートの存在が非常に大きいです。自分が「一人で

術後や切断術後の義足のリハビリも大きな役目です。手術以外にも白血病、悪性のリンパ腫、多発性骨髄腫など、新しい医療のあり方が求められており、リハビリの必要性がますます増えていくと予想されます。静岡がんセンターのリハビリ科は、治療前から診療科との相互連携を大きなポイント

「泣いたってしょうがない」と泣くことを我慢したり、「話したって上がってくる」と、気持ちも一緒に上がってくる、気がついてくると、不安な時、体の筋肉は、気がかぬうちに緊張しておさ、医療スタッフといったサポートの存在が非常に大きいです。自分が「一人で

「泣いたってしょうがない」と泣くことを我慢したり、「話したって上がってくる」と、気持ちも一緒に上がってくる、気がついてくると、不安な時、体の筋肉は、気がかぬうちに緊張しておさ、医療スタッフといったサポートの存在が非常に大きいです。自分が「一人で